

平成 21 年度吉野熊野国立公園（熊野地域）エコツーリズム総合推進事業

事業主体：環境省近畿地方環境事務所、業務期間：平成 21 年 12 月 7 日～平成 22 年 3 月 19 日、業務実施場所：三重県南牟婁郡御浜町

1. 業務の内容

●観光振興・地場産業活性化のツールとして「エコツアー」に期待

- ・三重県南牟婁郡御浜町は、紀伊半島・三重県南部にあり、熊野灘に面し 20 数キロに渡って続く美しい七里御浜の中間部に位置し、吉野熊野国立公園区域でもある。典型的な海洋性気候で、温暖な気候を活かし一年を通して柑橘類が栽培されている。
- ・御浜町には、平成 16 年に世界文化遺産に指定された「紀伊山地の霊場と参詣道」の一部である「本宮道」と「浜街道」が残るが、主な観光資源は近隣の市町に多く誘客に結びついていない。また、地域資源を活かした地場産業の盛んな町を目指しているが、基幹産業の柑橘栽培は担い手不足など危機的状況にある。
- ・御浜町では、打開策のひとつとしてエコツーリズムやフットパスに期待しており、行政職員が中心となり観光名所や自然景観を巡るツアーづくりに取り組んできた。今後このような取り組みを観光振興・地域活性化のツールとして育て、定着させていくためには、地域の方々の参加を促し取り組みの裾野を広げていく必要がある。



熊野灘に面する御浜町、広がる果樹園

●御浜町のエコツーリズム推進の取り組みを支援（ワークショップの実施など）

- ・本業務では、観光と自然環境保全、地域活性化を同時に実現する「エコツーリズム」の考え方にに基づき、行政と地域の方々が集まり御浜の資源を巡るコースづくりに取り組むことで、エコツーリズムの浸透、エコツーリズム推進の土台となる行政と地域の協働体制の構築を目的に次の支援を行った。

① 講演会の実施（1 回）

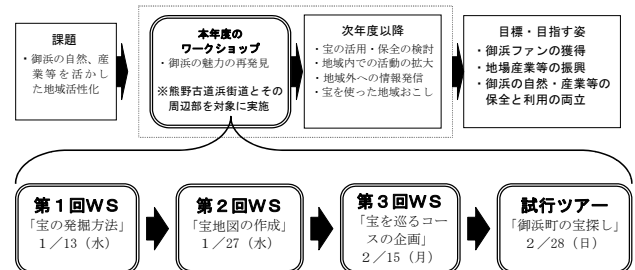
② 住民参加のワークショップ（3 回）：

地域資源調査、資源分布図の作成、資源を巡るコース検討

③ 試行ツアー（1 回）：試行ツアーによるコースの確認・評価

④ 地域資源等を紹介するパンフレット（素案）の作成

本業務の位置づけと実施スケジュール



2. 実施結果

■講演会の内容

まずは、参加者の方々にやる気になってもらうため、講演会を実施。

若松氏の「夕日」によるまちづくりの取り組みは、参加者の心を掴む。

◎人間牧場主 若松進一氏『地域の宝を見つけ、育てる』

◎フットパスアドバイザー 松本清氏『フットパスによるまちづくり』

■ワークショップの実施

WSには地域住民や役場職員など約 30 名が集まった。居住地域ごとに 4 グループに分かれて、御浜の宝を 1 枚の地図にまとめた後、御浜の魅力を感じられるコースを検討。グループごとに検討結果を発表し、情報を共有した。

最後に、各コースは、そのためには現地確認や外部からの評価を受けながら、今後対外的に PR できるものに改善して行くことを確認した。

■試行ツアーの実施

投票で 1 コースを選び、試行ツアーを実施。松本清氏が、担当者とともにコースを歩き、コースの魅力を評価。参加者はコースのポテンシャル、改善点を確認。



ワークショップの様子



フィールドで景観を解説する松本氏



御浜町の資源を巡るコースマップ